

## ●腎臓の病気



「蛋白尿」と「血尿」が指摘されたら」

循環器・呼吸器内科 菅原 俊之



腎臓

ほとんどの腎臓の病気には自覚症状はありません。ネフローゼ症候群などの一部の腎臓の病気では、まぶたや足、ひどくなると全身がむくむのですが、腎臓病の大半を占める「少しずつ悪くなる慢性腎臓病」では、こういった自覚症状がありません。

腎臓が力尽きる状態となって、はじめて自覚症状が出現します。血液に老廃物がたまり、腎臓で尿が作れなくなった結果として、

体に水分が貯留します。これを尿毒症といいます。

尿毒症になりますと、さく乱や意識障害などの精神症状が出てくる患者さんがいらっしやいます。また、けいれん、貧血、高血圧や不整脈などの全身の症状、さらに、心臓の機能が障害され血液循環が不十分な状態である心不全や心臓を覆っている膜に炎症がおこる心膜炎など、命に係わるいろいろな症状がでてきます。

このような状態を末期の腎不全といいます。したが、これを放置すると、死んでしまいます。そのため、老廃物がたまった血液をいったん外に出してきれいにする、すなわち、浄化をして体に戻す透析療法をする必要があります。人工腎臓といえる透析は、現在、全国で約30万人の患者さんが受けられています。透析の代表である血液透析は1回4時間、1週間に3回もおこなう必要があります、次第に、

体が「しんどく」なります。透析になれば、余命は長くありません。

そのため、腎臓病の早期発見が大事になります。そこには、尿検査を受けることです。わが国ではいろいろな法律により健康診断の項目の一つに検尿が定められており、幼少期から老年期まであらゆる年齢層に尿検査を受ける機会があります。検尿制度が確立した国は、日本などかなり限られています。

検診でみつかると尿検査の異常は、尿に蛋白が多い(尿蛋白が陽性)、尿に血液が混じっている(尿潜血が陽性)の二つです。自覚症状がないからといって、尿検査に異常があっても放置してしまうと、腎臓病を見逃し、手遅れになり、透析になってしまいます。



### ① 尿蛋白のみが陽性の時

下腿(膝から下)を押して、あとが残るようなむくみがあった場合は、糸球体(腎臓の血液をきれいにするところ)の血管の壁に異常があり、そこから大量の蛋白が漏れ出している病気のネフローゼ症候群の可能性が高いです。できるだけ早く腎臓専門医を受診するようにしましょう。腎生検(腎臓の一部の組織を採取して顕微鏡で調べる検査)が必要になります。むくみがない場合も、腎臓の病気の可能性があるので、腎臓専門医を受診しましょう。



### ② 尿潜血のみが陽性の場合

尿潜血が単独で陽性の時は、糸球体の病気(内科の病気)も疑われるのですが、膀胱癌や

尿路結石などの泌尿器科の病気も疑われます。尿蛋白が陰性で、尿潜血が陽性的場合は、内科か泌尿器科のかかりつけ医を受診してもらい、内科の病気か泌尿器科の病気をかを見分ける必要があります。泌尿器科の病気であれば、尿に出ている赤血球(血液の成分)に変形を認めませんが、内科の病気では尿の赤血球に変形を認めます。ここで、注意が必要です。泌尿器科を受診して、膀胱鏡や超音波などの検査で「異常がないから心配いらない」と言われることがあります。これは、「泌尿器科の病気に関して心配がいらぬ」ということです。その後も尿潜血が続き、さらに尿蛋白が陽性となったときは、内科の病気の可能性が高いですので、腎臓の専門医を受診しましょう。

### ③ 尿蛋白と尿潜血がともに陽性の時

いずれ透析になる病気の一つである糸球体

腎炎、特にIgA腎症である可能性が高いです。最初から、腎臓専門医を受診することをお勧めします。なんらかの腎臓の病気が疑われる場合は、腎生検を行い、最終的な診断になります。IgA腎症の早期根治には腎生検を早期に行う必要があります。



## 地域医療連携室からのお知らせ



家族が病気になった、入院した、誰もが不安になりますよね。

当院では、入院時にスクリーニングを行い、問題点・課題などを一緒に解決できるよう取り組んでいます。地域医療連携室の看護師三名・社会福祉士二名が各病棟を担当し、医師・看護師などと連携し、支援していきます。

転院が必要であれば転院先の相談・調整など、退院先にあわせて対応します。なかには、この状態で自宅に帰れるのかと悩んでいる方もいると思います。点滴をしている、たん吸引が必要、経管栄養や胃瘻でも、環境を整えれば自宅で生活が出来ます。往診・訪問看護・介護などの様々なサービスについて情報提供し、一緒に退院を目指します。患者さん・家族の思いを確認しながら、少しでもより良い生活が出来るように。

地域医療連携室では、院内の連携だけではなく、ケアマネージャーや施設スタッフ、行政など院外との連携も重要となっています。最近では、独居・老介護なども増えており、患者さんだけでなく、

周りの家族の支援も一緒に行う事も増えてきています。

たとえ病気が治っても、退院後の生活に不安が残る場合もあると思います。『先生から退院と言われたけど…』など困った時はぜひ相談に来て下さい。一緒に考え、何かお力になればらと思っております。もちろん、入院中の方以外でも、通院中の方、それ以外の方でも、子供から高齢者まで、まずはお話を聞かせて下さい。ちょっとした事でも、誰かに話して聞いてもらえるだけで楽になる事ってありませんか。当院地域医療連携室がそんな場所になれば…

平日 8時15分～17時、一階中央待合ホールお待ちしております。予約制ではありませんが、急な対応が出来ない場合がありますので、可能な限り、事前に日時調整をお願い致します。

地域医療連携室

社会福祉士 渋谷英里



# サマーフェスティバル 2018 開催のお礼



7月8日(日)に行われたサマーフェスティバルは、200名を超える観客を動員し、皆様のご協力の下、盛況に終了することができ、ありがとうございました。

今回のフェスティバルは、公開講座をお休みして、春日井バレエダンスアカデミーの皆さんによるダンスパフォーマンスや青森ラインメールFCメンバーのトークショーが行われました。患者さんからは、「孫のような子のバレエダンスを見て感動した」との声も聞かれ好評でした。

医局バンドライブでは、お馴染みのSinonさん、アルパ奏者の小野華那子さんをお招きし、すてきな音楽や歌声がホールに響きました。さらに、研修医1年生による元気いっぱいのダンスは皆様に元気をお届けできたのではないかと思います。

そして、木浪学園の生徒さんによるハンドマッサージの特設ブースは、たくさんの来場者があり、癒しの空間になったと思います。

また、今回新しい試みとして、「美術展」を開催し、職員より絵画、写真、折り紙など様々な作品が約60点展示され、「楽しく鑑賞できた」との感想をいただきました。



## ウインターコンサート 2018開催のお知らせ

青森市民病院中央待合ホールにて当院泌尿器科の高橋伸也部長と小児科の市瀬広太部長による市民公開講座を開催します。

青森明の星短期大学合唱サークル「プリマ☆ステッラ」のみなさんによるアカペラのご披露、そして恒例となりました地域医療連携バンドによる歌と演奏で患者さんや市民のみなさんへ元気になっていただきたいと考えております。昨年ウインターコンサートを開催できなかった分、今年は2年分みなさんを楽しませます。

どなたでも無料でご覧になれますので、是非会場にお越しください。駐車場も無料です。

平成30年12月9日(日)午後1時~

### 編集後記

私も青森市の職員ですので、最近、サッカーのラインメールの応援に行っています。この前のサマーフェスティバルに来ていただきましたよね。ただ、私は行っていると言っても、まだ4回しか行っていませんが、ラインメールはJFL(日本フットボールリーグ)というリーグに所属しています。去年は2位と頑張ったのですが、今年は下位(中位?)に低迷しています。同じJFLの八戸のチーム、ヴァンラーレはなんと来年J3(Jリーグ)に昇格するようです。是非、ラインメールにも頑張ってもらいたいです。そのためには1試合平均2000人の観客が必要とのこと。現在は500人くらいようです。あと、4倍。大変です。内視鏡室でも有志が細々と応援にかけつけています。

皆さんもお暇でしたら、見に行ってください。

広報委員会  
和田豊人



当院は(財)日本医療機能評価機構認定病院です。

### 理念

私たちは、安全で良質な医療の提供と、みなさまに信頼される病院を目指します。

### 基本方針

1. 中核病院として、地域医療の確保と医療サービスを提供します。
2. 常に患者の立場に立って、患者の話をよく聴き、安全で親切な医療を提供します。
3. 地域医療の発展のため、優れた医療人を育成します。
4. 良質な医療は健全な経営の上に成り立つことを自覚し、病院運営に参加します。

